

高病原性鳥インフルエンザの発生を防止しましょう！！

中国：農場、生鳥市場、野鳥生息地等を対象とする定期的なサーベイランスのうち、9月中旬実施分の結果として、51件の検出事例が報告されています。
(H5N1亜型ウイルス16件、H5N2亜型ウイルス8件、H5N3亜型ウイルス1件、H5N6亜型ウイルス24件及びH5N8亜型ウイルス2件)
また、日本への渡り鳥の経由地と考えられる中国東北部の黒龍江省北部や遼寧省渤海湾岸の湿地等でウイルスが検出されています。

韓国：本年9月以降も高病原性鳥インフルエンザ(H5N8亜型)の発生が報告されています。

(詳しくは裏面へ)

野鳥による日本への侵入リスクが非常に高い状況ですので、野生動物の侵入防止対策、消毒の徹底をお願いします。



侵入防止対策
(防鳥ネットの点検)



- ・専用の長靴
- ・踏み込み消毒槽



部外者の立入制限

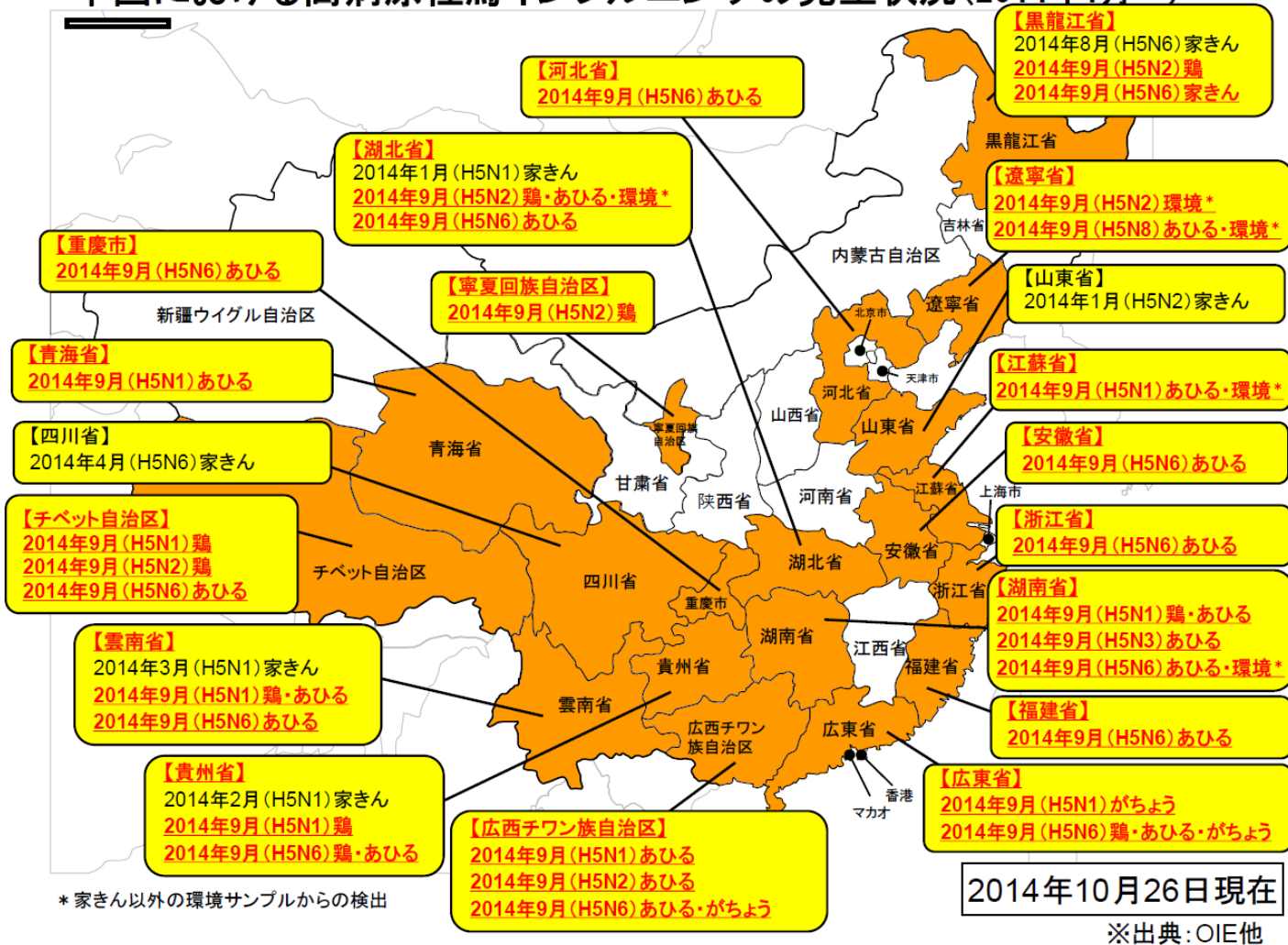


車両消毒

※過去21日間の平均死亡率の2倍を超える死亡があった場合等、異状を発見した場合には、すぐに家畜保健衛生所(飛騨総合庁舎 電話 0577-33-1111)まで連絡してください。

※平日時間外(午前8時30分～午後5時15分以外)や休日の電話に対しては、「電話交換業務が終了しています。」に続く、「お急ぎの場合は、そのまま「1番」をダイヤル願います。」の案内メッセージに従って対応をお願いします。

中国における高病原性鳥インフルエンザの発生状況 (2014年1月~)



韓国における高病原性鳥インフルエンザの発生状況 (2014年10月30日)

	発生期間	発生件数	殺処分数	血清亜型
1	2003年12月10日 ~2004年3月20日 (102日間)	19件 (鶏10件、あひる9件)	392農場 528万5,000羽	H5N1
2	2006年11月22日 ~2007年3月6日 (104日間)	7件 (鶏4件、あひる2件、うずら1件)	460農場 280万羽	H5N1
3	2008年4月1日 ~5月12日 (42日間)	33件 (鶏26件、あひる7件)	1,500農場 1,020万4,000羽	H5N1
4	2010年12月29日 ~2011年5月16日 (139日間)	53件 (鶏18件、あひる33件、うずら等2件)	286農場 647万3,000羽	H5N1
5	2014年1月16日 ~7月25日 (191日間)	212件 (29件+183件*) (鶏44件、あひる159件、うずら等9件)	548農場 1,396万1,000羽	H5N8
	2014年9月24日~	1件 (あひる1件) この他に5件の疑い事例等が報道されている(10月30日時点)	1農場 1万9,800羽	H5N8

※: 発生農場周辺及び疫学関連農場等において陽性が確認されたもの

出典: 韓国農林畜産食品部、OIE等